

修士論文（要旨）

2012年1月

日中当為表現の対照研究  
—日本語の「ベキダ」「ナケレバナラナイ」と中国語の「应该」「必须」を中心に—

指導 新屋映子 教授

言語教育研究科  
日本語教育専攻  
210J3001  
于 冰心

## 目次

第1章 研究背景と目的 .....	1
第2章 先行研究 .....	3
第3章 調査方法 .....	14
第4章 調査結果 .....	17
第5章 考察 .....	24
第6章 まとめ .....	46
第7章 今後の課題 .....	47
謝辞	
資料	
引用・参考文献	

「ベキダ」と「ナケレバナラナイ」は現代日本語の当為表現として知られている。「ベキダ」と「ナケレバナラナイ」を中国語に翻訳する場合、それに対応して使われる中国語表現は主に「应该」と「必须」である。この四表現はお互い関連性を持ち、日本語学習者に対しても間違いやすい表現である。本研究は、中国人学習者の誤用に関する四表現を研究対象とし、日本語の「ベキダ」「ナケレバナラナイ」に注目し、対照的な観点から中国語の「应该」「必须」との用法の異同を解明しようとするものである。

益岡(2007)は、事態の望ましさを表すことから、「ベキダ」、「ナケレバナラナイ」などの助動詞を「価値判断のモダリティ」と呼び、三つのタイプに分けている。劉(1996)は「应该」について、二つの意味用法があると述べている。荒川(2003)は意味と統語的機能によって、中国語の助動詞を4グループに分類し、「应该」はその中の「当為・必要」グループと「可能性・蓋然性」グループに属し、「必须」は「当為・必要」グループに属していると記述している。

本研究は北京日本学研究中心(2003)『中日対訳コーパス (第1版)』を資料とす。コーパスに収録された各作品の日本語原文と中国語訳、中国語原文と日本語訳の両方から分析を行う。まず、「ベキダ」「ナケレバナラナイ」「应该」「必须」に限定することなく、当為表現全体のデータを採集し、中国語の方は荒川(2003)に基づき、日本語の方は益岡(2007)に基づいて分類し、当為表現の使用実態を把握する。次に、日本語の「ベキダ」「ナケレバナラナイ」と中国語の「应该」「必须」だけに注目し、実例を一つ一つ見ていく。

集計したデータを見ると、日本語原文のほうは、「ナケレバナラナイ」と「ベキダ」を使用する比率が高いということが分かる。それに対して、中国語原文のほうは「要」「应该」「必须」の順に使用率が高くなっており、これら3語で全体の80%を占めている。中国語の「应该」は「当為・必要」を表す「应该Ⅰ」と「可能性・蓋然性」を表す「应该Ⅱ」があるが、「ベキダ」「ナケレバナラナイ」と対応しているのはほぼ「应该Ⅰ」のほうである。また、「ベキダ」の中国語訳は「应该」に、「ナケレバナラナイ」の中国語訳は「必须」に集中している。

次は調査結果に基づき、当為表現の「ベキダ」「ナケレバナラナイ」と「应该」「必须」との関連性を考察する。四表現の関連性を解明するため、人称、連体修飾、事態の実現と未実現などの観点から具体例を取り上げ、分析を行う。

「ベキダ」・「应该」の関連性はこのようにまとめることができる：①両者とも1人称の使用が多く、主に独言や心理活動の場面で使われます；2人称と3人称の場合、上位者相手ときは使用を避けることが多い；②「ベキダ」には連体形の「ベキ(N)」の使用が多い

が、「应该」は連体修飾節として使われることが少ない。これは、日本語はプロトタイプの名詞修飾と非プロトタイプの名詞修飾の両方とも使用できるが、中国語はプロトタイプの名詞修飾に傾くという日中両言語の構造上の違いから生じたものだと思われる；③表す事態の実現と未実現について、両者が類似点を持っており、未実現の事態を表現しやすいと思われる。

「ナケレバナラナイ」・「必須」の関連性についても三点にまとめることができる：①人称については、1人称と3人称の使用が多く、2人称での使用が少ないと見られる。両者とも義務性を含める表現であり、他人に対するより、自分に対して使いやすいと思われる；②前節の「ベキダ」、「应该」と同様、日本語原文での連体修飾の「ナケレバナラナイ(N)」は連体修飾の「必須(N)」との対応件数は少なく、中国語原文でわずか8件の「必須(N)」の例文が例外なく全部「ナケレバナラナイ(N)」と対応している；③両者とも実現・未実現の事態を表すことができるが、データの件数から見ると、未実現の事態を表しやすいと思われる。

そのほか、「ベキダ」・「必須」、「ナケレバナラナイ」・「应该」の関連性についても考察した。結果として、以下のようなことが挙げられる。指示性、命令性の強い「必須」が日本語の「ベキダ」に訳されますと、「ベキダ」もその影響で指示性が強調される。一方、「必須」より指示性、命令性の弱い「应该」が日本語の「ナケレバナラナイ」に訳される場合、「ナケレバナラナイ」の指示性、命令性を弱めることがある。

## 資料

北京日本学研究中心(2003) 日中対訳コーパス 第一版

## 引用・参考文献

- 荒川清秀(2003)『一步進んだ中国語文法』大修館書店 pp.179 - 203
- 市川保子編(2010)『日本語誤用辞典—外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント』スリーエーネットワーク pp.519 - 523, 632 - 637
- 王其莉(2011)「日本語の「べきだ」と中国語の“应该”」『日中言語対照研究論集』13 日中対照言語学会 pp.73 - 88
- 玄宜青(1994)「現代語の当為性判断をあらわす諸形式の意味タイプ」『中国語学』241 日本中国語学会 pp.59 - 68
- 洪心衡(1957)『能願動詞 趋向動詞 判断詞』中国新知識出版社 pp.1 - 20
- 郷丸静香(1995)「現代日本語の当為表現：“なければならない”と“べきだ”」『三重大学日本語学文学』6 三重大学日本語学文学研究室 pp.29 - 39
- 阪田雪子・倉持保男(1980)『教師用日本語教育ハンドブック④文法Ⅱ 助動詞を中心にして改訂版』国際交流基金 日本語国際センター pp.97 - 112
- 高梨信乃(2002)「評価のモダリティ」宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃『新日本語文法選書4 モダリティ』くろしお出版 pp. 80 - 120
- 高梨信乃(2005)「評価のモダリティを表す助動詞“べきだ”」『神戸大学留学生センター紀要』11 神戸大学 pp.1 - 15
- 張偉麗(2007)「“能願動詞”と否定の関係に関する考察：“应该(ying gai)”を通して」『日本語文化研究』11 龍谷大学 pp.18 - 32
- 程焱(2009)「日本語の助動詞“ベキダ”と中国語の能願動詞“应该”—意味的対応関係と人称制限問題を中心に—」『日中言語研究と日本語教育』2 好文出版 pp.63 - 73
- 仁田義雄(1999)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法4 モダリティ』くろしお出版 pp.91 - 130
- 野林靖彦(1996)「「～ベキダ」「～ナケレバナラナイ」「～ザルヲエナイ」—3形式が表す当為判断の連関」『東北大学文学部日本語学科論集』6 東北大学文学部日本語学科 pp.69 - 80
- 布和(2008)「日中対照言語学に関する一考察-「必要性」を表す中国助動詞の日本語訳を例に-」『桜花学園大学人文学部研究紀要』10 桜花学園大学 pp.143 - 150
- 堀江薫・プラシャント(2009)『言語のタイポロジー』研究社 pp.61 - 82
- 益岡隆志(2007)『日本語モダリティ探究』くろしお出版 pp.213 - 227
- 森山卓郎(1992)「価値判断のムード形式と人称」『日本語教育』77号 日本語教育学会 pp.26 - 35

劉月華ほか 相原茂監訳(1996)『現代中国語文法総覧』くろしお出版 pp.147 - 161  
呂叔湘主編(1999)『現代汉语八百詞 増訂本』商务印书馆 pp.623 - 624